

## [06] エネルギー史研究ノート表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/13832>

---

出版情報：エネルギー史研究ノート．6，1976-03-15．エネルギー史研究会  
バージョン：  
権利関係：

分地ヲ差上ケ、国用ヲ補ヒ家中ヲ救ハンヨリ外ナシト申合サレ、各三分地を出サル、爾來終ニ回ラスシテ永ク公田ト成、

此時御当家ヨリ差出サル、処ノ村々

上嘉瀬 砥川 福母 喜佐木 大渡

以上五ヶ村 地米三千四百五十石餘ナリ

とあつて、多久領主から鍋島本藩へ差出された村の中に福母があり、その移譲の経過が分る。以後『御屋形日記』の中には「御蔵入福母村」として出てくるようになるが、隣接しているので縁組や火災、天災の都度関り合いは深く続いていた。

大体佐賀藩内で最も早く石炭採掘がなされたのは福母ということになつており、『鉾山沿革調』にも福母坑の沿革に「今ヲ去ル百年余（年月不詳）発見シ其以來興発存亡、慶応二年ヨリ開業：」とあり、初めて福母に石炭が発見されたのは凡そ安永年間ということになる。

然し、宝暦元年十月廿三日福母村源太郎は、至極当然のこのように石炭焼を願出て居り、多久邑でもさしたる抵抗もないまま許可しているのは、既に福母に於ても、多久に於ても石炭焼に關ることが、それ程珍しいことではなかつたのではないであらうか。恐らくこれが多久私領内の出来事であつたら、日記の記事として書き留められる程のことではなかつたのかも知れない。と思うのは、この宝暦元年を境にして数年間の「御屋形日記」を繰つてみたが、遂に類似の記録に出合なかつた。先に書いた「草場佩川日記」の中の大副山採掘の記事も年月を照し合せて調べてみたが「御屋形日記」の方には書かれていなかつたのである。

なお、宝暦一安永よりさらに年代は下るが、文政九年（一八二六）にジールポルトが江戸の「將軍の居城」へ旅をした際の旅行記『江

戸参府紀行』に、肥前のウクモト（Wukumoto）で炭坑を視察した記事が書きとめられており、このウクモトは福母であろうと推定されている。

## 執筆者紹介

（掲載順）

田中直樹	日本大学講師（生産工学部）
東定宣昌	九州大学経済学部助手
秀村選三	九州大学教授（経済学部）
米津三郎	福岡県地方史連絡協議会副会長
町田保次	佐賀行政監察局勤務
今野孝	麻生セメント本社社史資料室勤務
坪内安衛	私設伊万里湾域石炭産業史資料室（元立川鉱業所労組委員長）
細川章	多久市立図書館司書
入江寿紀	西日本鉄道本社勤務
左合藤三郎	元『日本労務管理年誌』編集委員
金子雨石	田川郷土研究会々員（元貝島炭鉱職員）
今津健治	神戸大学助教（教養部）
八田千恵子	佐賀新聞社勤務